

国公立戦 部便り

目次

1. 国公立戦 講評

- 1.1 監督より
- 1.2 主将・女子主将より

2. 国公立戦 試合経過

3. 選手の言葉

4. 試合結果

5. 自己記録更新者一覧

6. 2017年度部内五傑

7. 2017年度東大記録更新者一覧

8. 主務より

1. 国公立戦 講評

1.1 監督より

監督・藤田靖浩

今年度の国公立戦は、総合男子2位、女子3位。学芸大との実力差は大きく、残念ながら総合優勝を果たすことは出来ませんでした。

個人の結果では男子は200mで河野、5000mで近藤、棒高跳で三宅が優勝。女子は高石が800mで終止独走のレースながら好記録をマーク、3000mでも優勝を果たしました。

全体として、昨年と比べての自力不足は否定できませんが、自己ベストを更新した選手も多く、少しずつですが着実にベースアップ出来てきています。追風参考ながら100mで1年聲高が10秒77、走幅跳で同じく1年栗原が6m95を記録したり、走高跳で1m90と10センチベストを更新した赤塚や砲丸投で11m21と80センチベストを更新した加藤など2番手、3番手からももう少しで七大レベルで活躍の期待できる選手が出てきました。

シーズンインから流れは上向きで来ていますので一ヶ月後の七大戦での連覇に向けて、練習に励んで参りたいと思います。引き続きの応援を宜しくお願い致します。

1.2 主将・女子主将より

主将・寶田雅治

今年の国公立戦は関東インカレから三週間後の6月の第三週の土曜日に行われました。対校の結果は男子が2位、女子が3位となり、男子は目標としていた優勝に届きませんでした。

全体の対校得点では東京学芸大学に負け越してしまいましたが、今回の国公立戦では対校、OP含めて大幅に自己ベストを更新した選手が目立ちました。対校男子走高跳では2年赤塚が10cmのベスト更新となる1m90、対校男子砲丸投では4年の加藤が11m21と試合が立て込んで難しい時期であるにもかかわらず、素晴らしい結果を出してくれました。また、今回の対校戦は多くの1年生にとって大学での初めての試合となりました。力のある1年生は既に対校選手として出場し、得点を獲得してくる逞しい活躍を見せています。

ベストを更新している選手が多く見られ、応援では他

大学を圧倒していて、試合の雰囲気としてはかなり良かったのではないかと感じています。ただ、今回の結果を素直に喜べないのはやはり対校戦なのに優勝することができなかったからです。幸いにも二週間後の四大戦で今回敗北した東京学芸大学にリベンジするチャンスがあります。四大戦では必ず優勝して七大戦への弾みもつけていきたいと思えます。

最後に、部員一同より一層の努力を重ねてまいりますので、OB、OGの皆様には今後も変わらぬご指導、ご鞭撻の程をよろしくお願いいたします。

女子主将・坪浦諒子

国公立戦は、女子パートとして例年通り「無理に他種目には出ず、専門種目に集中する」という姿勢で臨みました。結果、2位となった首都大学に各種目で少しずつ得点を重ねられ、チームとしては下馬評から1つ順位を落とした3位に終わりました。勝つに越したことはありませんが、この度の国公立戦に関しては元々のチームの姿勢ゆえ致し方ない結果だと思ひ、また、人数の少なさを考慮するとこの姿勢は妥当であったとも考えています。しかし、同じことを来たる七大戦で繰り返すことは決して許されません。総合優勝に向けて一人一人が自分の役割を把握し、1点でも多く獲得できるように実力の底上げやベストな出場種目の選択を徹底して行っていく所存です。

今年度の女子パートは、高石(3)の好記録は多分に評価出来ますが、他選手は今一つ物足りない調子です。今一度チームとしても気合を入れ、良い結果を残せるよう練習に励んで参ります。今後ともご指導ご鞭撻の程、よろしくごお願い申し上げます。

2. 国公立戦 試合経過

◎トラック種目

9:30 男子 1500m

妹背(4年)、渡部(2年)、杉本(2年)の出場。天気は快晴で、朝一番のレースだったこともあり気温は落ち着き走りやすいコンディションであった。

号砲とともに各選手勢いよく出走。妹背が5番手、渡部が中盤、杉本が後方に着く。400mを先頭の妹背が

60"7、続く渡部が62"3、少し遅れて杉本が64"8で通過。ここから全体的にスピードアップがあり、800mは妹背が2'06"7で全体7番目の通過、渡部が2'09"7、杉本が2'13"0で通過する。1000m付近で妹背がスピードをあげ、順位を3つあげて再び5番手に着けた。渡部、杉本はペースを大きく崩すことなく維持。1200mは妹背が3'11"8、渡部が3'18"8、杉本が3'23"7で通過。妹背は最後まで粘り強く走ったが先頭集団に少し離されて、4'00"42の5位でゴール。渡部は最後の一周を競り勝ち4'07"94のPB、12位でゴール。杉本はラストの追い上げをみせ4'15"23の19位でのゴール。

結果、東大としては4点を獲得。全体的にスピードを求められるレース展開で、個人の力が顕著に出るレースだったが、各人が全力を出して戦った。この姿勢は今後の試合でも生かされるだろう。PBも生まれ、次のレースにも大いに期待できる。

9:45 男子 400m 予選

対校男子400mは3組で行われ、各組上位2着+2が決勝に進出できる。当日は朝から日差しが強く、気温が高かった。

1組6レーンに小嶋(3年)の出場。資格記録ではちょうど決勝進出ボーダー付近にいるため、応援にもひとときわ熱が入る。得意のスタートからの鋭い前半の入りが決まり、後続に差をつける。ホームストレートで1人に抜かれるが、応援の後押しもあり粘りの走りを見せ50"62のUBで2着。見事に決勝進出を決めた。

2組6レーンに伊藤(2年)の出場。今シーズン好調でPBを出しており、さらなるPBと決勝進出を狙ってのレースであった。スタートはまずまずであったが、バックストレートで内側の選手に並ばれてしまう。粘りを見せるも伸びず、52"26で4着。以降の対校戦での活躍に期待したい。

3組3レーンに河野(4年)の出場。資格記録は全体の4番手で組内ではトップであり、まずは着実に決勝進出を決めてほしいところであった。スタートから快調にレースを進め、トップで第4コーナーを抜けてくる。しかし、ホームストレートで大きく減速してしまい、2人に抜かれ51"43で3着。本来の実力を発揮しきれずに、決勝進出を逃してしまう非常に悔しい結果となってしまった。

10:35 男子 100m 予選

対校男子 100m は 3 組で行われ、各組上位 2 着+2 が決勝に進出できる。天候は晴れて気温は高かった。

1 組 8 レーンに影山(2 年)の出場。影山にとっては自己ベストをどれほど更新して格上相手に食らいつけるかが鍵となるレースであった。スタートで大きく出遅れてしまった影山はその後追い上げを見せるも届かず、11"43 の 4 着でゴール。この時の風は+0.6m であった。自己ベストであっただけにスタートの遅れが悔やまれるレースであった。

2 組 6 レーンに渡辺(3 年)の出場。申請記録から厳しい戦いが予想された。スタートで体勢を崩した渡辺は焦りからか加速局面から力んでしまい 11"38 の 6 着でゴール。この時の風は+2.7m であった。好条件であったため記録的にも内容的にも渡辺にとって悔いが残るレースであった。

3 組 4 レーンに聲高(1 年)の出場。申請記録は組でトップであり、決勝に向けて余力が残せるかが重要なレースであった。まずまずのスタートを切った聲高は得意の中盤で一気にトップに立ち、後半は少し流して 10"77 の 1 着でゴール。この時の風は+2.1m であった。聲高は 1 位と 100 分の 1 秒差の全体 2 位で決勝に進出した。

10:35 女子 100m 予選

気温がますます高くなり日差しが強くなっていく中、女子対校 100m 予選に内山(2 年)が出場。女子対校 100m は 2 組 3 着+2 で行われる。下馬評では、3 位であったから予選突破は硬いと思われた。

内山は 2 組 5 レーンでの出場となる。素晴らしい反応でスタートすることができたが 4 レーンを走る選手に先行され、中盤では 6 レーンの選手に追い抜かれてしまう。しかし、後半は自分の走りを保ち失速することなく 3 着でフィニッシュ。結果は 12"91(+2.4)であった。

本来の走りではなかったが 3 着に入ったため見事決勝進出。決勝ではさらに良い走りに期待したい。

11:05 男子 110mH タイムレース決勝

1 組 3 レーンに中島(4 年)の出場。体調不良で思うように調整ができない中、組 1 着及び全体 7 位以上を目指し

てのレースであった。スタートは好調、序盤までは首位を争った。しかし 3 台目に抜足を引っ掛けてしまい、バランスを崩し失速、そのまま差をつけられ 16"83 の 3 着でゴール。このときの風は+1.1m であった。全体順位は 9 位となり、目標には及ばず課題の残るレースとなった。

2 組 6 レーンに寶田(4 年)の出場。棒高跳びを終え、走り高跳び及び 400mH を控えていたが、より高い得点を期待されたレースであった。スタートはやや出遅れたものの、安定した走りを見せ、レベルの高いレースの中 15"91 の 6 着でゴール。このとき風は+0.8m であった。全体順位は 6 位となり、主将の意地を見せ 3 点を獲得したが、本人としては課題の残るレースとなった。

11:20 男子 200m 予選

対校男子 200m は 2 組で行われ、各組上位 3 着+2 が決勝に進出できる。1 組 7 レーンに長久(4 年)の出場。前半から 6 レーンの選手に詰められる苦しい展開。コーナーを出たあたりで 6 レーンの選手に抜かされてしまう。しかし、後半に粘りを見せ、前の選手との差を詰める。自己ベストの 22"64 の 5 着でゴール。この時の風は+1.0m であった。0"01 先着した 4 着の選手がタイムで拾われただけに後悔の残る結果になったが、前半で先行されながらも自己ベストを出すことができたという意味で今後に繋がるレースであった。

2 組は 6 レーンに阿久津(2 年)、8 レーンに河野(4 年)の出場。阿久津は前半から積極的な走りを見せ、80m 付近で 7 レーンの選手を抜かす。しかし、ホームストレートに入ってからずるずる後退していき、22"68 の 5 着でゴール。この時の風は+0.9m であった。阿久津は約 8 ヶ月ぶりの 200m のレースであったが、見事自己ベスト。今後レースをこなしていけば、さらなる記録更新は容易であろう。しかし、長久と同様、わずかな差で決勝進出を逃したことが悔やまれる。一方の河野は 400m での予選落ちを感じさせぬ伸びやかな走りを見せる。前半から先頭に立ち、そのまま一度も先頭を譲らずにゴール。タイムは 21"88。

11:35 男子 800m 予選

1 組 4 レーンに小野(2 年)の出場。調子も良く、気力も十分。横一線のスタートとなり位置取りが難しく、

200m~300m 付近では他選手に囲まれて窮屈だったが、350m 付近で先頭に立った。400m は 59"8 で通過。そのままレースを引っ張り、2 番手からも逃げ切って 1'58"84 の 1 着でゴール。決勝に向けて最後の直線で力を緩める精神的余裕がなかったことは、今後の課題である。

2 組 5 レーンに早川(4 年)の出場。3 年連続の決勝進出を目指してのレースだった。スタートは悪くなく、200m 手前付近で先頭に立った後、しばらく独走となった。400m は 57"9 で通過。残り 140m 付近で差がなくなって切り替えたが、最後の直線で 5 人に抜かれ、1'59"60 の 6 着でゴール。惜しくも 0"14 差で決勝進出を逃した。今後の対校戦でのリベンジに期待したい。

3 組 4 レーンに坂口(3 年)の出場。持ちタイムは組で 1 番。スタートから 1 人が飛び出し、2 番集団が形成されるというレース展開となった。400m は 60"9 で通過。550m 付近でスピードを上げて 2 番手に浮上し、残り 120m 付近で追い上げてきた他選手もスパートをかけて振り切って 1'59"14 の 2 着でゴール。しっかり決勝進出を果たした。

12:00 男子 5000mW 決勝

棟重(4 年)、堀江(3 年)、千菊(1 年)の出場。記録上は学芸大の 3 人が上位 3 位を占め、厳しい展開が予想された。天気は快晴で強い風が吹きつけ、長距離種目にとっては厳しい条件のレースとなった。

スタートから学芸大の選手の 1 人がトップに立ち 2 位集団に棟重が学芸大の選手 2 人と共につく。序盤からペースを保ち、1000m~3000m は、4'07-4'12-4'14 で安定した展開、3600m 付近で 2 位集団から飛び出した学芸大の選手についていった。4000m 前後で 2 度の警告が付いた。結局その後は 4'16-4'14 と、ラストスパートで振り切られたものの、棟重は 21'08"55 で下馬評を上回る 3 位入賞となり、暑い中でも落ち着いたレース展開が功を奏した。

一方、堀江はスタート直後から 5 位集団を形成する。堀江は 1000m 通過 4'16 で、1200m 付近から前に出て単独歩となるも前の 2 位集団との差はなかなか縮まらず、後ろの集団との差は大きくなる。次の 1000m は 4'18、3000m 付近から堀江はペースが落ち始め、3500m 付近で後ろに追いつかれ、食らいつくものの 6 位に後退、こ

の 2000 は 4'24-4'34 であった。その後 4600m 付近で再び追いつく粘りを見せ、5000m のラップは 4'17 とあげて、21'49"77 の 5 位に順位を上げてゴール。

また、千菊は最後尾集団からのスタート、初めの 1000m を 4'33、1600m 付近で集団のもう 1 人の選手に離されるものの、差を縮めて一定の距離を保つ。その後 4'36-4'43、3000m 付近で再び離され振り切られてしまい、その後は単独歩となり 4000m(4'50)付近で周回差を付けられ苦しい表情を見せたものの、ラストは 4'39 とペースを持ち直し 23'15"29 の 7 位でゴール。1 年生で初対校ながらも安定した歩きで、今後に期待できるレースとなった。

12:40 男子 100m 決勝

5 レーンに聲高(1 年)の出場。予選を流して全体 2 位で通過したため、優勝が期待された。しかし、直前のスタート練習中に聲高は両足を攣るというアクシデントに見舞われ、無念の棄権となった。走れば得点が入る決勝であり、本人にとってもチームにとっても非常に残念な結果となった。聲高はまだ 1 年であり、今回の悔いを糧に今後の対校戦で大いに活躍してもらいたい。

12:45 女子 100m 決勝

7 レーンに内山(2 年)が出場。予選のタイムと風を考慮すると内山は全体の 5,6 番手あたりで他の選手との実力も拮抗しており、予選よりもいい走りをして、上位での得点を獲得することが期待された。その一方、100m 予選、走幅跳と出場しており、疲労も心配される。

午前の強い追い風とは打って変わって強い向かい風が吹く。電子音の号砲とともに一斉にスタート。スタートは 3 人の選手にやや離され、4 番手。スピードに乗った中間付近で 8 レーンの選手にかわされるかと思われたが、最後まで落ちない粘りのある走りを魅せ、最後まで競り合ったままゴール。結果は 13"23(-1.7)の 4 位。5 位のタイムも 13"23 で 100 分の 1 秒以下の勝負に競り勝つての 4 位で 5 点を獲得した。本来の調子ではなかったものの、勝負強さが光ったいいレースだったと言えるだろう。今後のさらなるタイムの向上にも期待したい。

12:55 男子 400m 決勝

8レーンに小嶋(3年)の出場。格上選手とのレースだが、持ち前の積極性を発揮して一つでも上の順位を狙ってほしいレースであった。一番外ということもあり、前半から積極的に飛ばす。第3第4コーナーで内側の選手に抜かされるが、ラストの直線で力を振り絞って粘り、50"36で4着。決勝の大舞台でPBを叩き出し、チームに貴重な得点をもたらした。

13:00 女子 400m 決勝

7レーンに坪浦(4年)の出場。女子主将としての意地を見せてもらいたいレースであった。晴れて気温は高く、レースがしやすい状況であった。申請記録の上では、56秒台を持つ6レーンの学芸の選手がひとつ飛び抜けており、他の選手は坪浦の58秒台よりも遅い59秒台であった。そのため、6レーンの学芸の選手とどれほど競ることができるかが勝負となりそうなレースであった。

号砲とともにスタート。外側のレーンのためか、前半から積極的に飛ばし、バックストレートから早くも6レーンの選手との一騎打ちに。力強い走りを見せるものの、最後は引き離されて58"76で2着。今シーズン初のフラットでのレースとなったが、良い走りを見せた。得意の400mHと合わせて400mでも今後の対校戦での活躍に期待したい。

13:55 男子 200m 決勝

5レーンに河野(4年)の出場。抜群のスタートを見せ、50mで早くも6レーンの選手を捉える。ホームストレートに出た時点で2位にかなりの差をつけた。後半やや詰められたが、21"72の1着でゴール。この時の風は+2.4m。記録としては、3本目だったこともあり少し伸び悩んだが、400mの予選落ちから見事に切れ替え、堂々の優勝であった。

14:10 男子 400mH タイムレース決勝

対校男子400mHは2組のタイムレース決勝で行われた。1組2レーンに今井(4年)、同組4レーンに松田(2年)、2組2レーンに實田(4年)の出場。天候は晴れ、気温は27度ほどで、良好なコンディションであった。1組目と2組目を合わせて3人が棄権し、1組、2組それぞれ

4人でのスタートとなった。

1組目は、4レーンの松田と5レーンの東学大の選手が張り合う展開で始まった。しかし、バックストレートに入ると松田がテンポよくハードルを越えていき、他選手との差を広げていく。ラスト100mで東学大の選手が追い上げを見せるが、松田が逃げ切り、56"84の1着でゴール。今井は内側から前方の選手を粘り強く追うが、徐々に引き離されて苦しい展開となり、1'03"74の4着でゴールした。松田は総合4位で5点を獲得、今井は総合8位で1点を獲得した。

2組目は、外側の2選手が先行し、内側の實田と東学大の選手がそれを追う展開で始まった。實田は前半から攻めの姿勢で走り、東学大の選手に対し一歩リードする。そのまま250m地点まで勢いに乗るが、東学大の選手の驚異的な追い上げについていくことができずに終盤は苦しい戦いを強いられ、56"87の4着でゴール。総合5位で4点を獲得した。

400mH全体では10点を獲得。松田が大学ベストを更新した。前半での勢いそのままに後半での失速を抑える走りができれば、3選手ともまだまだタイムが向上するものと思われる。今後の走りに期待したい。

14:35 男子 800m 決勝

3レーンに小野(2年)、8レーンに坂口(3年)の出場。両者とも1日に複数レースを走るのは初めてであったが、予選での落ち着いた走りや、持ち記録を見ると高得点奪取が期待される。

号砲から両者とも軽快な動きを見せる。ブレイク後、ややスピードを緩めた坂口に対し、小野は優勝候補でもある東工大の河合の後ろ、3番手につく。坂口もその後ろの4番手につき、両者そのまま200mを29"前後で通過。飛び出した海洋大の大嶋を先頭に、レース展開は変わることなく、小野は3番手・58"2で400mを通過。坂口も離れず4番手・58"9のラップ。450m付近から2番手河合がややペースを上げ、小野もそれについていく。一方の坂口はやや離れてしまう。両者とも順位は変えずに600mを通過。600mで河合、小野はさらにペースアップ。落ちてきた大嶋をほぼ同時に抜いたところで、小

野が河合の前に出る。しかし残り 80m 付近で河合に抜き返された小野はそのまま 1'57"55 の 2 位でフィニッシュ。一方の坂口はラストスパートがかけられず、650m 付近で 5 番手・6 番手の選手に抜かされ、2'02"60 の 6 位でフィニッシュ。

小野にとっては下馬評を覆した形となり、今後のレースに向けての自信となるレースであった。一方の坂口は足の状態が良くなく、そのコンディションが諸に結果に現れた形となってしまった。早期回復を願うと共に、今後を期待したい。

14:45 女子 800m タイムレース決勝

1 組 4 レーンに高石(3 年)、同 8 レーンに荒木(3 年)の出場。資格記録では高石が頭一つ抜け、荒木も 5 番目ということで、得点が期待される。梅雨にもかかわらず雲一つなく非常に暑い中のスタートとなった。

高石は、スタートから積極的に飛び出し後続と大きな差をつける。64"5 で 400m を通過し、そこから快調に独走し自身の東大記録に 0"16 まで迫る 2'12"68 の 1 着でゴールした。荒木は 7 番手でブレイク。6 番手を追い 71"6 で 400m を通過した。更に上位を窺うも、500m 過ぎから徐々に離される。最後は 8 番手に追い上げられたが逃げ切り 2'36"87 の 7 着でゴールした。

総合順位は高石が 1 位、荒木が 7 位で合計 10 点を獲得した。高石は、関東インカレ 800m での 2 年連続準決勝進出や、個人選手権 800m 準決勝での決勝に僅か 0"02 に迫る走りなど今期は好調を維持している。9 月に福井で行われる全日本インカレでも、自身の東大記録の更なる更新や高次のラウンドへの進出が期待される。荒木は、今期は自己ベストには及ばない走りが続いているが、練習を積み、七大戦や京大戦での対校での飛翔を期待したい。

14:55 男子 4×100mR タイムレース決勝

対校男子 4×100mR 決勝は 1 チームの棄権があり、7 チームの出場で行われた。東大は 3 レーンに出場。走順は井上(1 年)-阿久津(2 年)-影山(2 年)-渡辺(3 年)である。下馬評では、学芸に続いて 2 番目の記録を有し、7 点獲得が見込まれていた。

当初は聲高(1 年)が出場し、阿久津-聲高-影山-渡辺の走

順で走る予定だったが聲高が男子対校 100m 決勝の直前に足をすり出場で困難であると判断したため、その聲高に代わって井上が起用された。

試合当日は気温がかなり高く風もやや強かった。静寂の中スタート。井上がいいスタートを切り、阿久津にバトンパス。当日の変更ながら綺麗にバトンが渡り阿久津は前との差をやや詰め、影山にバトンを渡す。ここのバトンも綺麗につながり、ついに最終コーナーである。影山が力走を見せアンカーの渡辺に三番手でバトンパス。渡辺は四番手のチームに差をかなり詰められてしまうが粘りのある走りでそのまま 3 着でフィニッシュし、6 点を獲得した。記録は 42"19 である。

メンバーが大幅に変わっていることもあるが、関東インカレと比べて 1"02 秒遅くなっている。そのため、一橋に負けての 3 位である。当日のメンバー変更にも関わらずバトンパスは綺麗だったが、走力に改善の余地はあると思うのでこれからの走りに期待したい。

15:05 男子 5000m 決勝

5000m には松本(4 年)、近藤(3 年)、栗山(2 年)が出場した。15 時頃スタートし、天候は曇りだが蒸し暑いコンディションとなった。近藤はスタート直後に飛び出してからは終始独走し、2'49-2'55-2'58 と安定したラップを刻んで、4000m ラップで 3'02 になったもののラスト 1000 のラップは 2'57 に戻して、14'43"64 で優勝。松本はスタート直後から形成された 5 人から成る 2 位集団を 3'00-3'05-3'06-3'09 と引っ張り続けた。ラスト 1 キロは 2'56 まで上げたが、ラスト 1 周からの集団のスパートには対応できず、最低限 1 人を抜き、15'17"81 で 5 位入賞した。栗山は 2 位集団の後ろの 7 人ほどの集団を 3'05-3'09-3'10-3'13 と引っ張り続けたが、4000m 手前で集団の後ろに下がると離されてペースダウンし、ラストは 3'19、結果として 15'59"39 で 11 位でのフィニッシュとなった。

15:30 女子 3000m 決勝

高石(3 年)、藤原(3 年)の出場。天気は朝から続く晴れで、気温が高めの中でのレースとなった。前回大会でワンツー・フィニッシュを飾った二人は、今大会でもワンツーを獲得ことはもちろん、自己記録の更新に期待がかかる。

号砲後、高石が先頭に飛び出し、藤原は集団真ん中に位置取る。間も無く高石が引っ張る形で4人の先頭集団を形成、藤原は第2集団の真ん中に付く。1000mの通過は高石が3'27、藤原が3'38。高石が先頭の集団は3人になり、藤原は5位争いを繰り広げる。高石はさらに1人、2人と引き離していき1800m付近では独走態勢を築いた。2000mの通過は高石が6'56、藤原が7'16。2200m付近で藤原は集団に対応できなくなり、一人旅に。ラスト1周の所で2位の首都大の選手が高石の至近距離まで迫ってきたが、高石はラスト300mから切り替え差を広げていき、10'27"91の1位でゴール。藤原は最後の力を振り絞って10'57"11の7位でゴールした。

高石は対校800mを走った疲労を物ともせず見事優勝。藤原の得点と合わせて10点獲得となった。藤原は春先から好調とは言えなかったが、今回の結果をバネに、平行線上の状態からもう一段ステップアップすることを期待したい。

16:10 男子4×400mR タイムレース決勝

1組3レーンに松田(2年)-長久(4年)-伊藤(2年)-加藤(3年)の走順で出場。2年生を2名にし、初の対校選手となる加藤などを起用した普段とは違ったメンバーで挑む。申請タイムの上では一番の学芸とは7秒近くの差があり、一位を取るのには厳しいものの、1組の残り4校のタイムは均衡しており接戦が予想される。

号砲とともに1走松田はスタートを切る。2レーンを走る東京工業大学の1走は400mで3位に入った力のある選手。松田は学芸には離されるも400mHの疲れを感じさせず、2レーンの選手にも引けを取らない安定した走りを見せ、3番手で2走の長久へ繋ぐ。長久は最初から快調に飛ばし4番手の首都大学東京を突き放し、前の東京工業大学を猛追。最後の直線100mで前の選手を抜き去り、2番手で3走伊藤へ。伊藤は400mの予選では力を出し切れなかったと前半から大きなストライドで飛ばしていく。途中、後ろの選手に迫られるも最後まで落ちない走りで見せ、後ろとの差を広げて4走の加藤へバトンパス。加藤は150m付近までは2番手を保つものの後ろからの猛追を受け、第3コーナーあたりでかわされる。最後まであまり伸びきれず組3着の3'23"50でゴール。2組の大学にはタイムで勝ったため、東大は全体3位となり

6点を獲得した。

4年生の河野、3年生の小嶋が走らないマイルとなったが、その中での3位は良い結果といえ、東大の短長の層の厚さが増した大会であったように思われる。四大戦や七大戦などの今後の対校戦でも良い結果が出せそうであり、今後に期待が持てるレースとなった。

◎フィールド種目

9:30 男子三段跳 決勝

試技順2番に木下(3年)、4番に平木(3年)、6番に毛利(3年)が出場。夏本番並に気温が上がった週末、試合当日は雲もほとんど無く晴れ渡り直射日光も照りつけ、朝から気温の高い試合となった。今シーズンが始まるとともに調子を上げて来た選手達は三人揃っての入賞が期待された。特に好調の木下には優勝の期待も高まる。

木下の1本目はつぶれながらも13m31で確実に記録を残す。2,3本目できれいな跳躍をして記録を14m55まで伸ばす。平木は一本目で13m72を跳び記録を残す。2,3本目は部分的に跳躍が乱れ記録を伸ばせず。毛利は1本目から安定感のある跳躍を見せ13m24。2本目はステップとジャンプの間が少し詰まったが、3本目にもう一度13m24を跳び抜群の安定感。3回の試技が終了し3人ともエイト進出を果たす。風が少し乱れる中ここまで全員がファール無し、と安定的な跳躍を見せる。4回目以降の試技に記録のさらなる飛躍の期待が高まる。しかし木下、平木ともに3本全てで惜しくもファール。毛利は3本とも白旗が上がるも記録を伸ばすことはできなかった。よってエイト以前の記録が決勝記録となり、木下が2位、平木が3位、毛利が6位にランクイン。

4回目以降の試技で記録を伸ばせなかったことは残念であったが、3人で16点をも獲得しこれからの対校戦の連戦に向けて期待の高まる一戦となった。

9:30 男子棒高跳 決勝

男子棒高跳には寶田雅治(4年)と三宅功朔(2年)が出場した。気温は少し暑いくらいで、ほぼ常時追い風が吹く絶好のコンディション。現東大記録保持者の川添さんが観戦にいらっしや、締まった空気で行われた。寶田は中助走での出場。3m00、3m40、3m60を1回でク

リアした。関東インカレでポールを折ったので最適な硬さのポールがない中での試合だったが、自己ベストタイをマークした。棒高跳を本格的に始めて間もない中の試合で、技術に大幅な改善が見られた。三宅は 4m50 を 2 回目でクリアすると、4m70, 4m90 でそれぞれポールを変え 1 回で成功。大学ベストタイをマークした。5m00 は跳躍がまとまらず 3 回とも失敗した。助走スピードと空中動作に改善が必要か。三宅が 1 位、寶田が 5 位となり 6 点を獲得した。

9:30 男子円盤投 決勝

男子円盤投には土井(4年)、山之内(4年)、佐竹(3年)の出場。学芸大の選手には関東インカレ一部円盤投に出場した選手もおり苦戦が予想されたが、3人とも実力は上がってきているので、なんとか上位入賞することが期待された。山之内は 1 投目を立ち投げで臨むと、いきなり 30m に届くかどうかという投擲で、29m93 と自己ベストを更新。土井の 1 投目はターンとパワーポジションに入ってからが上手く繋がらず 25m47、佐竹の 1 投目は 30m のラインを超えたがサークルに踏みとどまらずにファールと厳しい出だしになった。山之内は 2 投目も立ち投げで臨み、27m57 と伸ばせない。確実にトップエイトに残りたい土井と佐竹は 2 投目を立ち投げで臨み、土井は 29m20、佐竹は 29m77 とまずまずの記録。ここから伸ばしたい山之内は 3 投目からターンを始め、三投目 26m29、4 投目 26m83、5 投目ファール、6 投目 29m48 とターンを改善しながらも 29m93 が記録になり 6 位となった。そして佐竹は 3 投目でバランスを崩しながらも 32m33 とベストを更新し 3 位に浮上して、さらに勢いに乗りたところだがその後は上手く記録を伸ばせず 3 位のままで競技を終了した。土井はターンは上手く入れていたものの最後に上手く接続出来ず、3 投目 29m11、4 投目ファール、5 投目は少し伸ばして 29m60、6 投目ファールで、結果としては 5 投目がこの日の記録となり、7 位で試技を終えた。

3人とも立ち投げの記録は向上してきているので、これからはターンの技術を向上させることで記録を伸ばすことを期待したい。

11:10 女子走幅跳 決勝

2メートル弱の追い風がトラックで常に吹いており、気温も高く、好条件。伸び悩んでいる中、この好条件での自己ベスト、関東インカレ標準切りが期待される。

1本目は風が 2m 弱。5m41 と、シーズンベストに並ぶほどの跳躍だった。残りの跳躍の攻めに期待がかかる。2本目、3本目は追い風参考であり、助走が詰まり気味となり記録は伸ばせず。この時点で 1 本目の 5m41 の一位で、ベストエイトに残る。4本目で他選手が 5m47 を出し、二位に後退したが、4本目、5本目はともに 5m18 と乗り切れない。6本目に助走スピードを上げ、記録更新を狙ったが、僅かにファールとなり、結局 1 本目の 5m41 が決勝記録となり、二位で終了した。

気候としては相当の好条件であったが、風が強めであり、助走が少し乱れたところもあった。全体としてはまとまった試合展開であったが、春先からの不調そのままに、いまひとつはまった跳躍がみられなかった。本人の言葉の通り、ここからのステップアップには方向転換が必要なのかもしれない。しかし時期を考えると、この先調子上がることはまず間違いなく、ここから続く四大戦、七大戦も、表彰台だけでなく、記録の方にも期待したい。

11:30 男子砲丸投 決勝

男子砲丸投には、加藤(4年)土井(4年)佐竹(3年)の出場。3人とも入賞が期待され、高得点が期待される。梅雨に入っていたが晴天に恵まれ気温が高く良いコンディションだった。

まず、最初の 3 投。加藤は安定したフォームで着実に記録を残していく。土井も 2 投目で 10m40 代を記録し上位に入る。佐竹はベストからは遠いながらも決勝進出ラインの記録を投げていく。最初の 3 投の結果、加藤が 10m64 で 4 位、土井が 10m44 で 5 位、佐竹が 9m70 で 7 位となり、3人とも決勝進出。決勝では加藤が 2 投目に 11m21 をマーク。渾身の投擲に応援していた部員から歓声が上がった。3 投目は惜しくも伸びず、1 人に抜かれて 4 位に。土井も決勝に入って動きが良くなり、最初の 3 投よりさらに良い記録を残していく。結果 10m82 で 5 位入賞。一方で佐竹が 3 投ともファール。記録を伸ばすことができず 9m70 で 7 位のままだった。

3人全員が入賞を果たし高得点を獲得した。加藤は自己ベストを更新。土井も決勝での投擲ができれば自己ベスト更新も遠くない。今後の記録更新が期待できる。一方で佐竹は直前の円盤投げの疲労からか思うように記録を伸ばすことができなかった。今後の活躍に期待したい

13:00 男子走高跳 決勝

3番に赤塚(2年)、10番に木下(3年)、12番に實田(4年)が出場。昼に近づき、朝から高かった気温がさらに高まり日差しも強い中での試合となった。今シーズン好調の木下、實田、この試合に合わせて念入りに調整を続けていた赤塚、全選手にベストの更新、得点の獲得が期待された。

バーは1m60からのスタート。實田は1m60を二回で成功。だが、1m65は惜しくもクリアできずここで試合を終える。木下、赤塚は共に1m75から登場。二人とも1m75は一度めで難なく成功。続いて1m80。木下は1回目で成功。赤塚も2回目で成功して自己ベストに並ぶ。バーは1m85に上がり木下1回目で難なくクリア。赤塚1回目の跳躍は失敗。だが、2回目で見事に成功。応援席は湧き上がる。続いて1m90。木下は手をバーに当てながらも1回目で成功。自身のベストに並ぶ。先ほど大跳躍を見せた赤塚、応援席の期待も高まるが、一回目、二回目共に失敗。さすがに自己ベストを10cmも更新するのは困難かと誰もが思った3回目、気合の入った跳躍でバーを美しく超えた。バーとの間にはまだ余裕がありさらなる更新も予感させる。だが、続く1m95は二人ともに3回とも失敗しここで試合を終える。結果、木下4位、赤塚8位、實田15位で6点を獲得。

今回は全体的に非常にレベルの高い戦いとなった。特に高い気温のせいで足を少しつるというアクシデントに見舞われながらも大幅な自己ベスト更新を成し遂げた赤塚を始め3人共に今後のさらなる飛躍が期待される。

13:50 男子やり投げ 決勝

向かい風の強い中男子やり投げの試合は行われた。石田(1年)、中村(1年)の2人にとっては初の試合であった。八木澤(3年)は50m超えが期待された。

石田の1投目は槍先が上に向いてしまい、向かい風を強く受けて失速したため記録は36m99にとどまった。

八木澤の1投目はラストクロスで若干失速し、記録は47m38となった。中村の1投目は石田と同様に槍先が上を向いてしまい、記録は31m55となった。石田の2投目はクロスが上手くハマリ、槍先も吹き上がらず綺麗に飛んだ。記録は42m69であった。八木澤の2投目は記録を伸ばし48m36であった。中村の2投目は1投目よりは良くなったもののまだ槍先が上を向いており、記録は38m02にとどまった。この時点で石田は9位であり、ベスト8入りが期待されたが3投目は記録を伸ばせず41m20に終わった。八木澤の3投目は記録が伸びず、自らラインを踏みファウルを選択した。中村の3投目はラストクロスのブロックが上手く決まり、槍先も上を向きすぎず上手く飛んだが、投げた後転んでしまいファウルとなった。全体5位でベスト8入りした八木澤は4投目ファウル、5投目48m21、6投目ファウルと、50mには届かなかった。最終結果は石田42m69(9位)、八木澤48m36(6位)、中村38m02(12位)であった。石田は初試合で40m超えを2回投げ安定感を見せつけた。八木澤は練習では50mを飛ばしているだけに少し物足りなさが残った。練習に比べ助走とクロススピードが若干落ちていくように思われたのでそこを修正してもらいたい。中村には安定感が求められた。各々課題はあったが、シーズン序盤の試合ということを考えると全体としては悪くない試合であったように思う。

14:00 男子走幅跳 決勝

草野(4年)、木下(3年)、栗原(1年)の出場。梅雨時と思えぬほどの晴天で、気温も高い。しかしピットの風は多少回っており、調整力を求められる環境であった。木下は三段跳、走高跳を終えた後の競技であるが、持ち前のパワフルさを発揮した上位入賞に期待したい。

1本目では、東大の選手らの試技直前に強い向かい風が吹き始めた。風の影響か、草野と栗原は6m27、6m52と出遅れるが、木下は6m87を飛ぶ。2本目、3本目の中で、木下が7m07、栗原も追い風参考ながら6m95と記録を伸ばし、ベストエイトを決めるが、草野は着地ミスなどもあり、2本目の6m45に留まり、惜しくも9位で競技を終えた。

しかしここで木下にアクシデントが発生した。3本目の試技中、スパイクで足を引っ掻き、血が止まらなくな

り、病院へ行くこととなった。木下は残りの試技をパスすることとなった。4本目以降の栗原は、果敢に攻める跳躍を見せるが、強い横風による追い風と向かい風に苦しみ、記録を伸ばすことはできなかった。木下が7m07の3位、栗原が6m95の6位で競技を終えた。

全体としては風に多少苦しんだ試合であったが、全員ファールなしという調整力の高さが見られた試合だった。また、木下、栗原は実力相応の結果であったのに対し、草野の出遅れが目についた。しかしながら、不調を打破しようという修正の意図が明らかに今日の草野の跳躍には現れており、実力を考えても、七大戦には十分間に合うと思われる。木下は疲労の中で7mを跳び、栗原も着実に実力をつけている。今後は、全員が7mオーバーかつ、全員で入賞することが手に届くところにあると言えるだろう。

3. 選手の言葉

短距離2年 小嶋健太郎

(400m)

国公立戦において個人種目400mに出させて頂きました。マイルリレーで対校戦には出場したことありました。しかし対校戦の個人種目は初めてで、言い訳のきかない独特のプレッシャーを感じつつ試合当日を迎えました。

アップの調子だと頭と体の連動があまりとれておらず、不安になってしまったのですが、なんとか思い込みで誤魔化し、応援の力も借りつつ、良い精神状態で予選に臨めました。

予選は50"62で、組では2着。タイム、着順ともに悪くはないと思いました。しかしバックストレートでの走りにおける足の接地が上手くいかず無駄に体力を消費してしまったことが気になりました。そこで決勝の前のアップでは重点的に足の接地をドリルを通して確認しました。

そのおかげなのか、決勝ではバックストレートで上手く体力を温存し、予選を上回る50"36で走ることが出来ました。

高校2年生以来の400mPB更新でしたが、私の目標はあくまで関カレの標準切りです。この結果に満足などせず、今回の決勝よりもう1秒早く400mを走れるように

なりたいです。今後も練習頑張っていきたいと思います。日頃より応援とサポートありがとうございます。

中距離2年 小野康介

(800m)

今年度の関東インカレ標準をあと一步のところまで突破できなかった私は、その悔しさを晴らすべく、この1ヶ月間しっかりと準備をして今回の国公立戦に臨みました。生活習慣を正して朝練を行ったり、自分のウィークポイントであるスプリントの強化を行ったり、できることはほぼ全てやった自信があったので、レース前も「これで負けたら仕方がない！」と割り切って不思議と落ち着いて臨むことができました。

まず、予選では着順で確実に決勝へ進もうと決めていたので、自分よりも持ちタイムが速い選手の前にも出て勝負をしました。予選で1位を取って波に乗ることができたため、下馬評では私の順位は5番でしたが、決勝でも1番を取ろうと決めました。

決勝のレースでは、ラスト100mで格上の選手の前に出るなど、積極的に走ることができましたが、最後はやはり自力の差が出てしまい、結局2位でした。1位は取れなかったものの、下馬評を覆せた上に、東大陸上部にも得点という形で貢献できたのはよかったと思います。

七大戦では、今回の国公立戦よりも厳しい戦いになるので、今一度気を引き締めて練習に励んでいこうと思います。

長距離4年 松本啓岐

(5000m)

4月に10000mで、6月初頭に5000mで大幅に自己記録を更新し、好調が続く中で久々に対校の出番がまわってきました。

トラックの対校戦を走るのは2年前の七大戦以来。そのときは違い、今回は十分得点可能な実力を持ち合わせて出走できました。

資格記録は5番目。他の選手の実力を分析して、3~6位をターゲットに走ることにしました。

当日は夏日で、風も強く吹いていました。スタートしてからしばらくは後ろで様子を伺い、牽制レースになるのを嫌って前に出ました。ここから2位集団を5人までに

絞り込めたのは作戦通りでした。この4人に勝てなかったとしても、それ以外の人に絶対に負けるわけにはいきませんでした。

そこからは、自分が引っ張る場面もありましたが、落ち着いたレース運びができました。結局ラスト勝負になり、一旦は全員に前に出られたものの、1人かわしてランキング通りの順位でゴールできました。

今回勝てなかった相手は全員自己記録が14分台の選手でした。自分はずっとスピードがないタイプですが、根本的な走力がもっとあれば、ラストスパートの体力も残せると思います。

今シーズンは七大戦の5000mで入賞することを目標にしています。現時点で14分台の選手が10人いて、一筋縄でいかないことはわかっていますが、自分もあと少しで14分台が出る状態ですし、残り1ヶ月でやれることは沢山あります。後悔のないよう最後まで努力していきます。

跳躍2年 赤塚智弥 (走高跳)

国公立戦は七大戦のロールモデルでした。そのため、今までとは異なる調整方法で臨みました。調整下手と周りから揶揄されるため、大会1週間前はかなり動きをセーブし、バネを溜め込むことに専念しました。試合の一週間前には慶應での練習で自己ベストも更新しており、跳躍の洗練度は大学入学以降の中ではかなりいい方でした。

移動時間が2時間を超えるため気分はやや低調ではありましたが、前向きに捉え、長すぎる移動時間はテンションを上げるには十分とし、トップ選手の跳躍動画の綿密なチェックをシイメトレを敢行しました。これで、テンション爆上がりです。

試合開始時間が昼前ということもあり、徐々に上がり始めた気温は十分に暑く、日差しはかなりきついものでした。少し長めのジョグを行い、ストレッチから動きづくりのドリルを行う普段通りの流れで動いていましたが、発汗量を考慮しておらず、水分塩分共に足りない状態となっていました。

六大戦での失敗を活かし、跳躍本数を抑えて跳躍を行ないましたが、上述した通り水分塩分共に足りなかったせいか、試技の冒頭1m75ですでに両ふくらはぎをつつて

しまいました。このため、助走が不安定となり、普段だったら引かからない高さも失敗し、試技数が嵩んでしまいました。結果的には、10cmのベスト更新となりましたが、悔いの残る内容でした。

今後としては、一大イベントとして七大戦が控えており、調整の感覚をこの試合を通じて掴んだため、しっかりと実力を発揮していきたいです。今の調子であればさらなる自己ベスト更新も十分可能だと考えていますので、体調管理を確実にいき、普段の練習の質を高めていきたいです。福永さんが抜けた後、圧倒的戦力ダウンが否めない高跳びの注目と実力アップを併せて行なっていくことが、今後当面の課題です。

跳躍2年 三宅功朔 (棒高跳)

国公立戦は今季4試合目。4m50,4m80,4m80と記録は推移していました。2戦目の日体記録会で15.7フィートのポールを大学に来て初めて使い、5mを跳べるレベルのポールを使えるようになってきたことを実感していました。しかし次の関東インカレでは跳躍が流れ再び4m80。自分だけで跳躍技術を管理するのに限界を感じたため練習を見てくれるコーチを求めて慶應大学に通うことにしました。おろそかにしていた突っ込み動作や助走のかけあがりなどを慶應大学のコーチに教えてもらい始めてから1週間経って、国公立戦がありました。棒高跳の試合の直前に走った100mオープンで11秒57もかかりめまいがしましたが、気を取り直して試合に臨みました。4m90は最低限。跳べてよかったです。問題は5m00。普通に棒高跳をすれば跳べる硬度のポールなのですが、跳べません。私が今しているのはいわば棒横跳です。

7月末にある七大戦までに5m10跳べば全日本インカレに出られます。5m10跳ぶには何をすればいいでしょうか。できることは15.7フィート170ポンドのポールを使うことと上体の筋肉強化、の2つではないかと思います。前者は踏切技術と助走の安定化(走力を上げるのではない!)、後者は脳筋。文字数の関係で理由は割愛しますが、この夏は以上の2つにかけてみたいです。七大戦後の部だより結果報告にご期待ください。

投擲4年 加藤輝仁 (砲丸投)

ゴールデンウイーク、関東インカレに一回だけでも出たくて日大競技会の砲丸投げに出ました。冬に積んできた筋トレは腰の怪我で満足のできるものではありませんでしたが、成果はあり標準を切れるレベルには到達していたと思います。

結果はご存知の通りベストの更新はしたものの23cm足りず出ることは出来ませんでした。その時はショックが大きすぎたのかあまり心は揺れませんでした。開催期間中にプレー風景を見て悔しい気持ちが込み上げてきてやるせなくなりました。でもそこで切り替えて七大・京大で勝つ、院生として関東インカレに出るんだと気持ちを作って練習してきました。

国公立戦はその為のサブゴールであり調整はしませんでした。学芸大の選手に勝つこと、土井と佐竹に勝つことを目標にプレーしました。11m21を出した5投目は何も音が聞こえず、それだけ集中して臨めたのが良かったのだと思います。

残念ながら学芸大のスコンクを阻止するには至れませんでした。体重移動の感覚を掴めたので更に記録を伸ばしていきます。来たる四大戦では今度こそ学芸大にリベンジするのでまた熱い応援をお願いします。

ありがとうございました。

4. 試合結果

第65回東京地区国公立大学対校陸上競技大会

男子100m

予選(3組2着+2)

1組(+0.6)

4 影山 優輔 東大 11"43

2組(+2.7)

6 渡辺 敬博 東大 11"38

3組(+2.1)

1 聲高 健吾 東大 10"77

決勝(-0.1)

1	小口 智毅	一橋大	10"84
2	増田 健吾	東学大	10"88
3	天野 皓平	東工大	10"90
4	尾川 拓巳	東工大	10"96
5	浅沼 優斗	一橋大	11"00
6	竹澤 陸	東学大	11"06
7	田中 宏樹	電通大	11"84
	聲高 健吾	東大	DNS

男子200m

予選(2組3着+2)

1組(+1.0)

5 長久 将 東大 22"63

2組(+0.9)

1 河野 太郎 東大 21"88

決勝(+2.4)

1	河野 太郎	東大	21"72
2	吉田 京平	東学大	21"86
3	天野 皓平	東工大	22"03
4	横山 毅仁	東工大	22"19
5	永井 生	東工大	22"27
6	田中 宏樹	電通大	22"60
7	古川 剛正	東学大	22"62
8	中野 紘史郎	東学大	23"57

男子400m

予選(3組2着+2)

1組

2 小嶋 健太郎 東大 50"62

2組

4 伊藤 康裕 東大 52"26

3組

3 河野 太郎 東大 51"43

決勝

1	齋藤 郁磨	東学大	48"72
2	狩野 遼太郎	東学大	49"31
3	高橋 智也	東工大	50"22
4	小嶋 健太郎	東大	50"36
5	吉沢 智貴	東学大	50"79
6	上村 雄斗	一橋大	50"92
7	齋藤 広武	一橋大	51"33
8	湯浅 雄介	首都大	51"97

男子 800m

予選(3組2着+2)

1組

1	小野 康介	東大	1'58"84
---	-------	----	---------

2組

6	早川 航平	東大	1'59"60
---	-------	----	---------

3組

2	坂口 諒	東大	1'59"14
---	------	----	---------

決勝

1	河合 正貴	東工大	1'55"77
2	小野 康介	東大	1'57"55
3	西菌 亘祐	農工大	1'58"27
4	渡邊 卓登	医歯大	1'59"11
5	大嶋 航平	海洋大	2'00"26
6	坂口 諒	東大	2'02"60
7	山口 誠司	農工大	2'03"10
8	大内 史彦	医歯大	2'03"11

男子 1500m

決勝

1	箱崎 喜郎	東工大	3'56"56
2	西菌 亘祐	農工大	3'57"11
3	江頭 悠郎	東工大	3'57"29
4	渡邊 卓登	医歯大	3'57"30
5	妹背 雄太	東大	4'00"42
6	鈴村 公補	東学大	4'00"60
7	塩田 匠	東工大	4'01"88

8	中島 福尚	東学大	4'02"41
---	-------	-----	---------

12	渡部 慎也	東大	4'07"94
----	-------	----	---------

19	杉本 直之	東大	4'15"23
----	-------	----	---------

男子 5000m 決勝

1	近藤 秀一	東大	14'43"64
---	-------	----	----------

2	塩田 匠	東工大	15'14"56
---	------	-----	----------

3	柿沼 拓也	一橋大	15'15"04
---	-------	-----	----------

4	高橋 巧	首都大	15'15"96
---	------	-----	----------

5	松本 啓岐	東大	15'17"81
---	-------	----	----------

6	多田 駿介	東工大	15'21"37
---	-------	-----	----------

7	入野 翔太	東学大	15'31"34
---	-------	-----	----------

8	阪本 豊	首都大	15'34"21
---	------	-----	----------

11	栗山 一輝	東大	15'59"39
----	-------	----	----------

男子 110mH タイムレース決勝

1	永島 唯哉	東工大	14"51(+0.8)
---	-------	-----	-------------

2	佐々木 嵩	東学大	14"77(+0.8)
---	-------	-----	-------------

3	武田 嵩史	首都大	15"37(+0.8)
---	-------	-----	-------------

4	前三盛 喬貴	東学大	15"38(+0.8)
---	--------	-----	-------------

5	滝口 康成	東学大	15"81(+0.8)
---	-------	-----	-------------

6	寶田 雅治	東大	15"91(+0.8)
---	-------	----	-------------

7	龍 広樹	首都大	16"39(+1.1)
---	------	-----	-------------

8	宅島 紀晶	農工大	16"54(+1.1)
---	-------	-----	-------------

9	中島 盛喜	東大	16"83(+1.1)
---	-------	----	-------------

中尾 幸志郎	東大	DNS
--------	----	-----

男子 400mH タイムレース決勝

1	佐々木 嵩	東学大	54"31
---	-------	-----	-------

2	永島 唯哉	東工大	55"26
---	-------	-----	-------

3	江頭 佑紀	東学大	55"64
---	-------	-----	-------

4	松田 光陽	東大	56"84
---	-------	----	-------

5	寶田 雅治	東大	56"87
---	-------	----	-------

6	荒井 佳太	東学大	57"24
---	-------	-----	-------

7	井上 雄平	海洋大	59"69
---	-------	-----	-------

8	今井 樹宏	東大	1'03"74
---	-------	----	---------

男子 5000mW 決勝

1	青山 福泉	東学大	20'47"95
---	-------	-----	----------

2	高橋 直己	東学大	21'02"96
---	-------	-----	----------

3 棟重 賢治	東大	21'08"55
4 上田 俊希	東学大	21'15"40
5 堀江 駿	東大	21'49"77
6 河野 樹	一橋大	21'49"81
7 千菊 智也	東大	23'15"29

男子4×100mR 決勝

1 東学大	直井—増田—竹澤—齋藤	40"75
2 一橋大	太田—浅沼—恒松—小口	41"63
3 東大	井上—阿久津—影山—渡辺	42"19
4 東工大	益田—永島—横山—尾川	42"26
5 首都大	佐野—松下—小山—瀧本	43"75
6 電通大	佐々木—田中—三浦—石村	44"02
7 農工大	内田—塩見—香坂—日向	44"10

男子4×400mR タイムレース 決勝

1 東学大	杉山—荒井—狩野—吉田	3'18"37
2 東工大	高橋—小長光—芝江—妻木	3'20"78
3 東大	松田—長久—伊藤—加藤	3'23"50
4 海洋大	山下—金子—山本—大嶋	3'25"30
5 一橋大	池野—齋藤—松原—上村	3'25"59
6 首都大	中村—小山—橋本—湯浅	3'26"03
7 電通大	田中—荻野—吉田—平井	3'31"39
8 医歯大	井上—渡邊—高野—齋藤	3'34"86

男子走幅跳 決勝

1 齋藤 郁磨	東学大	7m60(+0.1)
2 香坂 俊光	農工大	7m15(-1.2)
3 木下 秀明	東大	7m07(+0.0)
4 荒谷 亘彦	東学大	7m06(-2.3)
5 山下 黎	東学大	7m05(+2.4)
6 栗原 怜也	東大	6m95(+2.6)
7 大友 翔太	海洋大	6m86(+0.0)
8 阿保 朗楽	一橋大	6m76(+1.6)
9 草野 恒平	東大	6m45(+1.7)

男子走高跳 決勝

1 小林 拓己	東工大	2m00
2 荻野 隼	電通大	1m95
3 久保田 晃	海洋大	1m95

4 木下 秀明	東大	1m90
4 本橋 輝久	東学大	1m90
6 山下 和宏	海洋大	1m90
7 櫻井 壮一	東工大	1m90
8 赤塚 智弥	東大	1m90
15 寶田 雅治	東大	1m60

男子棒高跳 決勝

1 三宅 功朔	東大	4m90
2 本橋 輝久	東学大	4m30
3 荒谷 亘彦	東学大	4m30
4 菅沼 舜	東学大	4m00
5 寶田 雅治	東大	3m60

男子三段跳 決勝

1 香坂 俊光	農工大	15m05(+2.0)
2 木下 秀明	東大	14m55(+1.5)
3 平木 基人	東大	13m72(+1.8)
4 長田 直樹	東学大	13m66(+1.6)
5 高島 良純	電通大	13m54(-0.6)
6 毛利 冬悟	東大	13m24(+0.0)
7 金子 翼	東学大	13m18(+0.2)
8 立花 連	農工大	12m91(+0.8)

男子砲丸投 決勝

1 栗本 恭宏	東学大	13m45
2 宮入 紳豪	東学大	12m42
3 齋藤 真	東学大	11m42
4 加藤 輝仁	東大	11m21
5 土井 雅人	東大	10m82
6 山口 航平	一橋大	9m88
7 佐竹 俊哉	東大	9m70
8 権藤 理夢	医歯大	9m53

男子円盤投 決勝

1 宮入 紳豪	東学大	43m06
2 北脇 恭介	東学大	33m59
3 佐竹 俊哉	東大	32m33
4 岡村 也寸志	電通大	31m85
5 本橋 輝久	東学大	31m61

6	山之内 良太	東大	29m93
7	土井 雅人	東大	29m60
8	小濱 開	首都大	29m17

男子やり投 決勝

1	矢部 尚史	一橋大	61m42
2	保坂 琢斗	首都大	54m97
3	桶川 雅毅	東学大	52m88
4	松本 卓馬	首都大	50m47
5	本橋 輝久	東学大	48m38
6	八木澤 光大	東大	48m36
7	齋藤 郁磨	東学大	47m98
8	福井 義光	東工大	44m37
9	石田 駿平	東大	42m69
12	中村 優太	東大	38m02

総合得点

1位:	東京学芸大学	199.5点
2位:	東京大学	136.5点
3位:	東京工業大学	103点
4位:	一橋大学	48点
5位:	首都大学東京	35点
6位:	東京農工大学	34点

女子100m

予選(2組3着+2)

2組(+2.4)

2	内山 咲良	東大	12"91
---	-------	----	-------

決勝(-1.7)

1	小宮 いつき	東学大	12"44
2	宇喜多 七海	東学大	12"89
3	鈴木 亜梨紗	首都大	12"92
4	内山 咲良	東大	13"23
5	木原 葉子	東工大	13"23
6	西川 眞生	首都大	13"31
7	角田 綾音	海洋大	13"95
8	青山 佳乃	茶女大	14"00

女子400m 決勝

1	平原 杏華	東学大	56"69
2	坪浦 諒子	東大	58"76
3	新田 美穂	首都大	59"79
4	木原 葉子	東工大	1'01"99
5	上加世田 樹奈	首都大	1'05"60
6	大重 舞奈	医歯大	1'07"52

女子800m タイムレース決勝

1	高石 涼香	東大	2'12"68
2	多田 光里	農工大	2'19"05
3	石川 優鈴	首都大	2'20"72
4	和田 あすか	東学大	2'20"98
5	長岡 亜由子	医歯大	2'27"89
6	澤田 英里香	一橋大	2'28"58
7	荒木 玲	東大	2'36"57
8	石井 里奈	首都大	2'36"69

女子3000m 決勝

1	高石 涼香	東大	10'27"91
2	石川 優鈴	首都大	10'36"78
3	多田 光里	農工大	10'43"47
4	上田 菜々子	東工大	10'47"46
5	諸富 愛奈	東学大	10'49"19
6	深沢 理緒	東学大	10'53"35
7	藤原 ゆか	東大	11'11"57
8	石井 那奈	首都大	11'31"64

女子走幅跳決勝

1	西村 千明	東学大	5m47(+0.6)
2	内山 咲良	東大	5m41(+1.8)
3	鈴木 亜梨紗	首都大	5m34(+0.1)
4	田中 亜季	東学大	5m31(-0.2)
5	角田 綾音	海洋大	4m79(+2.9)
6	小越 友季	医歯大	4m50(+1.0)

総合得点

1位:	東京学芸大学	84点
2位:	首都大学東京	49点
3位:	東京大学	37点

2017 日本学生陸上競技個人選手権大会**男子 3000mSC タイムレース決勝**

- 1 藤崎 真伍 流経大 8'53"20
 2 海老沢 太郎 駒大 8'53"75
 3 滋野 聖也 星道都大 8'55"73
 27 福島 洋佑 東大院 9'37"02

女子 800m**予選(4組3着+4)**

- 1 組
 2 高石 涼香 東大 2'15"37

準決勝(2組3着+2)

- 2 組
 5 高石 涼香 東大 2'14"15

決勝

- 1 北村 夢 日体大 2'04"69
 2 池崎 愛里 順大 2'08"32
 3 塚中 彩海 名城大 2'10"29

5. 自己記録更新者一覧**6/17 第65回東京地区国公立大学対校陸上競技大会**

- 100m 影山優輔(2年) 11"43(+0.6)
 100m 菱川遼吾(4年) 11"43(+1.7)
 100m 藤原暉(2年) 11"49(+0.4)
 100m 片渕大成(2年) 11"83(+1.7)
 200m 長久将(4年) 22"64(+1.0)
 200m 阿久津大貴(2年) 22"68(+1.0)
 400m 小嶋健太郎(3年) 50"36
 800m 岸康太(4年) 2'00"39
 800m 遠藤幸生(4年) 2'09"82
 1500m 渡部慎也(2年) 4'07"94
 3000m 高石涼香(3年) 10'27"91
 5000m 松原新(2年) 17'18"67
 5000mW 棟重賢治(4年) 21'08"55
 走高跳 赤塚智弥(2) 1m90
 円盤投 佐竹俊哉(3年) 32m33

- 円盤投 山之内良太(4年) 29m93
 砲丸投 加藤輝仁(4年) 11m21
 砲丸投 山之内良太(4年) 9m29
 やり投 八木澤光大(3年) 48m36

6. 2017年度 部内五傑

(順位 氏名 (学年) タイム 日付)

男子 100m

- 1 河野太郎(4年) 10"96(+1.0) 5.7
 2 阿久津大貴(2年) 11"13(+1.5) 5.7
 3 渡辺敬博(3年) 11"23(+1.7) 5.7
 4 村井輝(2年) 11"26(+0.7) 3.18
 5 長久将(4年) 11"26(+1.7) 5.7

男子 200m

- 1 聲高健吾(1年) 21"58(+1.7) 5.27
 2 河野太郎(4年) 21"61(+0.6) 5.27
 3 長久将(4年) 22"64(+1.0) 6.17
 4 阿久津大貴(2年) 22"68(+1.0) 6.17
 5 後藤裕瑛(4年) 22"95(-0.8) 6.4

男子 400m

- 1 河野太郎(4年) 49"85 4.8
 2 小嶋健太郎(3年) 50"36 6.17
 3 松田光陽(2年) 50"79 6.4
 4 寶田雅治(4年) 51"20 5.26
 5 長久将(4年) 51"23 4.29

男子 800m

- 1 坂口諒(3年) 1'55"63 4.8
 2 小野康介(2年) 1'56"10 4.8
 3 早川航平(4年) 1'57"45 6.3
 4 妹背雄太(4年) 1'57"48 4.30
 5 伊藤龍一郎(3年) 1'58"47 6.3

男子 1500m

- 1 近藤秀一(3年) 3'53"75 4.8
 2 妹背雄太(4年) 3'59"68 4.8
 3 渡部慎也(2年) 4'07"94 6.3

4 小野康介(2年)	4'09"10	3.19
5 杉本直之(2年)	4'14"77	6.3

男子 5000m

1 近藤秀一(3年)	14'43"64	6.17
2 松本啓岐(4年)	15'08"84	6.4
3 阿部飛雄馬(2年)	15'12"38	4.23
4 栗山一輝(2年)	15'17"27	6.4
5 妹背雄太(4年)	15'47"42	4.23

男子 10000m

1 近藤秀一(3年)	29'16"49	5.25
2 阿部飛雄馬(2年)	31'12"74	4.22
3 松本啓岐(4年)	31'21"69	4.22
4 田村和也(4年)	32'43"71	4.22
5 須藤克誉(4年)	34'11"89	3.26

男子 110mH

1 寶田雅治(4年)	15"93(+0.8)	4.8
2 村井輝(2年)	16"03(+1.3)	4.8
3 中島盛喜(4年)	16"61(+1.7)	5.7
4 中尾幸志郎(2年)	16"62(-1.8)	6.4
5 杉森康平(8年)	16"94(-0.9)	5.25

男子 400mH

1 松田光陽(2年)	56"84	6.17
2 寶田雅治(4年)	56"87	6.17
3 中尾幸志郎(2年)	60"08	6.4
4 今井樹宏(4年)	63"74	6.17

男子 3000mSC

1 栗山一輝(2年)	9'52"04	5.20
2 肱岡佑(3年)	9'52"18	3.25
3 妹背雄太(4年)	9'52"76	3.25
4 遠藤正陽(2年)	10'17"11	3.25
5 古賀淳平(2年)	10'22"01	6.4

男子 5000mW

1 渡邊成陽(5年)	21'02"40	6.17
2 棟重賢治(4年)	21'08"55	6.17

3 堀江駿(3年)	21'49"77	6.17
4 千菊智也(1年)	23'15"29	6.17

男子 10000mW

1 堀江駿(3年)	44'39"77	5.27
2 棟重賢治(4年)	46'00"02	5.27

男子 4×100mR

1 阿久津(2)-聲高(1)-河野(4)-長久(4)	41"27	5.25
2 井上(1)-阿久津(2)-影山(2)-渡辺(3)	42"19	6.17
3 影山(2)-田口(3)-河野(4)-長久(4)	42"47	4.8
4 影山(2)-平岡(4)-平木(3)-阿久津(2)	43"76	3.26

男子 4×400mR

1 小嶋(3)-河野(4)-松田(2)-長久(4)	3'19"22	5.27
2 松田(2)-長久(4)-伊藤(2)-加藤(3)	3'23"50	6.17
2 河野(4)-早川(4)-長久(4)-伊藤(2)	3'32"58	4.8

男子走幅跳

1 木下秀明(3年)	7m18(-1.5)	4.6
2 藤原暉(2年)	6m79(-0.6)	4.6
3 草野恒平(4年)	6m72(+0.9)	5.7
4 栗原怜也(1年)	6m62(-0.3)	6.17
5 村井輝(2年)	6m57(+0.6)	5.6

男子三段跳

1 木下秀明(3年)	14m88(-0.3)	5.27
2 平木基人(3年)	14m04(+0.9)	5.7
3 毛利冬悟(3年)	13m59(+0.6)	3.18
4 赤塚智弥(2年)	13m43(-0.9)	3.25
5 片渕大成(2年)	12m01(-0.6)	3.25

男子走高跳

1 木下秀明(3年)	1m90	6.17
1 赤塚智弥(2年)	1m90	6.17
3 寶田雅治(4年)	1m65	3.18
4 村井輝(2年)	1m60	5.6

男子棒高跳

1 三宅功朔(2年)	4m90	6.17
------------	------	------

2 寶田雅治(4年)	3m60	5.6
3 村井輝(2年)	3m30	5.6

砲丸投

1 加藤輝仁(4年)	11m21	6.17
2 土井雅人(4年)	10m81	6.17
3 佐竹俊哉(3年)	10m76	4.8
4 村井輝(2年)	9m54	5.6
5 山之内良太(4年)	9m29	6.17

円盤投

1 佐竹俊哉(3年)	32m33	6.17
2 土井雅人(4年)	30m46	4.8
3 山之内良太(4年)	29m93	6.17
4 寶田雅治(4年)	23m86	3.19
5 村井輝(2年)	21m84	3.19

やり投

1 八木澤光大(3年)	48m36	6.17
2 石田駿平(1年)	42m69	6.17
3 寶田雅治(4年)	41m36	3.19
4 村井輝(2年)	38m70	5.7
5 中村優太(1年)	38m02	6.17

女子 100m

1 内山咲良(2年)	13"03(+1.0)	4.8
------------	-------------	-----

女子 400m

1 坪浦諒子(4年)	58"76	6.17
------------	-------	------

女子 800m

1 高石涼香(2年)	2'12"52	4.22
2 荒木玲(2年)	2'34"02	4.22

女子 1500m

1 高石涼香(3年)	4'47"83	3.26
2 藤原ゆか(3年)	5'07"87	6.3
3 荒木玲(3年)	5'21"41	3.26
4 堀越美菜(3年)	5'37"55	4.22

女子 3000m

1 高石涼香(3年)	10'27"91	6.17
2 藤原ゆか(3年)	11'11"57	6.17

女子 5000m

1 堀越美菜(3年)	21'09"97	3.18
------------	----------	------

女子 400mH

1 坪浦諒子(4年)	63"14	5.27
------------	-------	------

女子走幅跳

1 内山咲良(2年)	5m41(+1.8)	6.17
------------	------------	------

女子三段跳

1 内山咲良(2年)	11m24(-0.2)	3.18
------------	-------------	------

7. 2017年度 東大記録更新者一覧

(種目 氏名 (学年) タイム 日付)

800m	高石涼香(3年)	2'12"56	4.22
10000m	近藤秀一(3年)	29'16"49	5.25
三段跳	内山咲良(2年)	11m24(-0.2)	3.18

8. 主務より

8.1 応援 OB・OG 紹介

応援 OB・OG 紹介

6/17(土)に鴻巣市立陸上競技場で行われました第65回東京地区国公立大学対校陸上競技大会に際し、応援に駆け付けてくださいました OB・OG の方のご氏名をご卒業年順に報告いたします。(敬称略)

昭和 54 年卒 中谷敬二

昭和 58 年卒 八田秀雄

昭和 63 年卒 寺田秋夫

平成 3 年卒 小野満

平成 3 年卒 馬場勝也

平成 15 年卒 川添雄太

平成 17 年卒 藤田靖浩

平成 23 年卒 渡邊拓也

平成 28 年卒 郡健太

平成 29 年卒 軽部智

平成 29 年卒 櫻井悠也

平成 29 年卒 田中恭平

ご多忙の中応援にお越しくございましたこと、現役部員一同心より御礼申し上げます。

8.2 行事予定

今後の行事予定をお知らせいたします。

7.1(土)	四大戦@大井
7.8(土)	OB戦@駒場
7.29(土)~7.30(日)	七大戦@知多、瑞穂
9.8(金)~9.10(日)	全日本 I.C. @福井
9.30(土)	京大戦@駒場
10.14(土)	箱根駅伝予選会@立川

※一橋戦は日程が確定していません。

8.3 連絡先

慶弔のご連絡は下記連絡先までお願い申し上げます。

総務委員長：斎藤誠二	
TEL	: 03-5370-9370
Mail	: Seiji_Saito@suntory.co.jp
学生主務：後藤裕瑛	
〒240-0046 神奈川県横浜市保土ヶ谷区仏向西 22-3-914	
TEL	: 070-6573-6935
Mail	: shumu@utf.org
学生主務補：富原健太	
Mail	: utf.shumuh@gmail.com

部便り郵送不要の方は、お手数ですが学生主務補までご連絡下さい。

この部便りは陸上運動部ホームページ内の「OBOG 向け」からもご覧になれます。

URL : <http://www.utf.org>

学生主務 後藤裕瑛

部便りに関するご意見、ご感想は部便り主任の須藤までお送り下さい。

部便り主任 須藤克誉

(Mail: utfbdyri2017@gmail.com)